



うさぎぐみ保護者

3歳児

うさぎぐみだより No.5

田島わくわく保育園 令和2年8月21日 熊谷・山際・長谷川



プール遊びたのしいよ

園庭では、セミが大合唱して夏本番を感じる毎日です。うさぎ組の子ども達は、セミの声に負けないくらい暑さの中でも元気一杯遊んでいます。晴天の日は、「今日はプールある？」と楽しみに登園してくる子ども達です。夏ならではのプール活動は、水の感触を楽しみ、水の中で身体が浮く感覚を味わって欲しいと願いながら進めています。最初は怖い気持ちもあって保育者にしがみついていた子も、回数を重ねると自分から水の中に入ったり、友だちの頑張っている姿を見て「やってみる。」「頑張ってみる。」とチャレンジしています。7月中は、プールの中を歩いたり、走ったり、水鉄砲をして遊びました。8月になって、徐々に身体を水の中に入れたり、フープにつかまって引っ張ってもらうことで水に浮く感覚を味わいました。今は、両手をプールの底について身体を伸ばして浮いて歩く「ワニ歩き」をしています。「ワニ歩き」をしながらバタ足にも挑戦しています。8月31日の「プール閉まり」の日までにワニ歩きが出来て、**頑張ったメダル**をもらえるように、頑張っています。



カブト虫係やっています

夏は昆虫をはじめ小さな生き物に出会える季節です。7月中旬に、カブト虫を持って来てくれたお友だちがいて、クラスで育てることになりました。まずは餌をやるということになり、保育者が「畑のきゅうりとナスをあげよう。」と言うと、「ダメ。それは死ぬよ。」「下痢するよ。」と言うので、調べると昆虫の本にその通りのがことが書いてありました。それからは、子ども達と相談して毎日1個の昆虫ゼリーをあげることを決めました。水のやり方は新聞紙を湿らせて被せることを調べ、毎日順番に回ってくるカブト虫係がお世話をしています。8月になると、トカゲとバッタも仲間入りしてそれぞれの生き物に適した関わりができるように、一緒に調べたり、実際に餌や水をやっています。トカゲはバッタを食べると知り、元気なバッタの飼育箱の隣でバッタを食べているトカゲの飼育箱があって、食物連鎖の現実を実感した日もありました。身近な生き物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを大切に思っている子ども達です。



ごっこ遊び大好き

うさぎ組の子どもたちはごっこ遊びが大好きです。2～3人集まるとすぐに「お家ごっこ」「美容院ごっこ」が始まります。この頃はクラス全員で「指人形ごっこ」「おばけごっこ」で盛り上がっています。イメージの違いでいざごっこになる時もありますが、子ども達なりに解決して遊びを進めています。

ごっこ遊びは2歳頃から学童期まで子どもには欠かせない遊びで4歳がピークと言われています。「見立て」「つもり」と想像力を働かせ、そのイメージを友だちと共有していく過程は創造的で言葉が発達し社交性や問題解決力が身についていきます。子どもの成長に欠かせないごっこ遊びで、たくさん遊びたいと思います。

